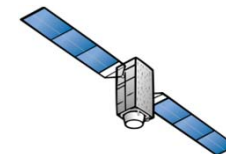


# 「実用」準天頂衛星システムへ

---

# 準天頂衛星システム事業の推進の基本的な考え方

(平成23年9月30日 閣議決定及び宇宙開発戦略本部決定)



準天頂衛星システムは、産業の国際競争力強化、産業・生活・行政の高度化・効率化、アジア太平洋地域への貢献と我が国プレゼンスの向上、日米協力の強化及び災害対応能力の向上等広義の安全保障に資するものである。

諸外国が測位衛星システムの整備を進めていることを踏まえ、我が国として、実用準天頂衛星システムの整備に可及的速やかに取り組むこととする。

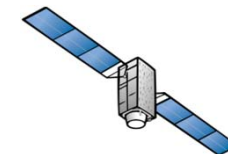
具体的には、2010年代後半を目途にまずは4機体制を整備する。将来的には、持続測位が可能となる7機体制を目指すこととする。

我が国として実用準天頂衛星システムの開発・整備・運用は、準天頂衛星初号機「みちびき」の成果を活用しつつ、内閣府が実施することとし、関連する予算要求を行うものとする。また、開発・整備・運用から利用及び海外展開を含む本事業の推進に当たっては、関係省庁及び産業界との連携・協力を図ることとする。

内閣府がこうした役割を果たすために必要な法律改正を予算措置に合わせて行うこととする。

なお、内閣府に実施体制を整備するに当たっては、行政機関の肥大化につながらないよう配慮するものとする。

# 準天頂衛星システムに係る予算



## (1) 衛星システム整備

閣議決定に基づき、平成24年度から3機分の衛星システムの開発・整備を開始する。

[関連予算]

平成24年度:106億円

(国庫債務負担行為により5年間で総額約513億円を計上)

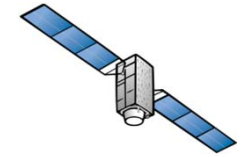
## (2) 地上システム整備及び運用

閣議決定に基づき、平成24年度から地上システムの開発・整備を開始する。運用開始は平成30年度を予定している(15年間)。

[関連予算]

国庫債務負担行為により総額約1173億円を計上

# 準天頂衛星システムの構成

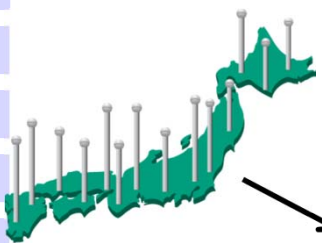


宇宙(衛星)システム

GPS補完信号及び  
補強信号

地上システム

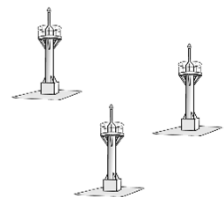
追跡管制局



国内監視局



主管制局  
(データ作成)



海外監視局

利用者システム



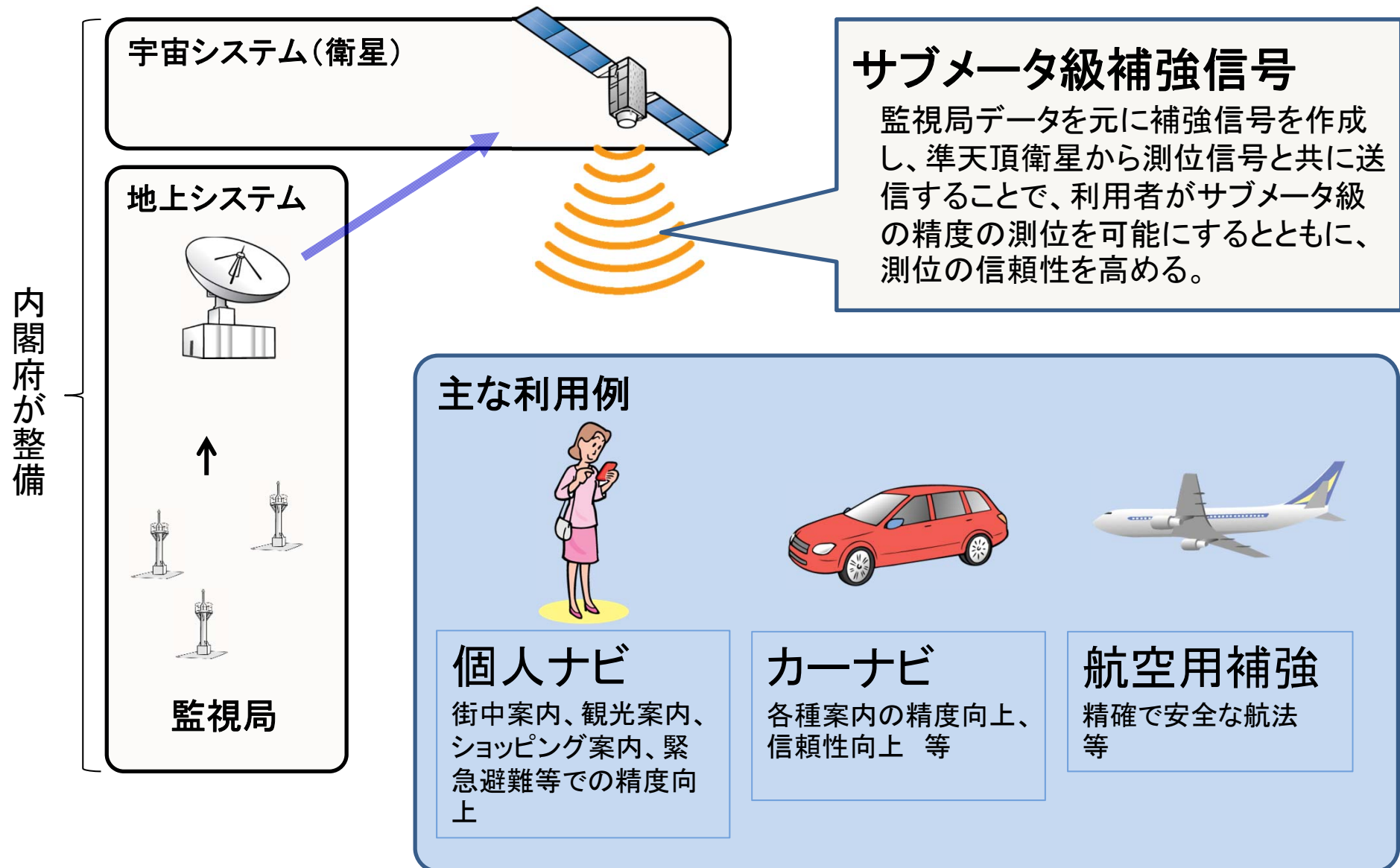
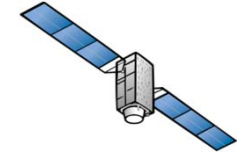
GPS

センチメートル級

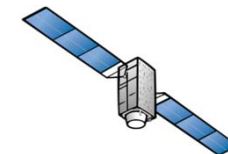
補強

サブメートル級

# サブメータ級補強

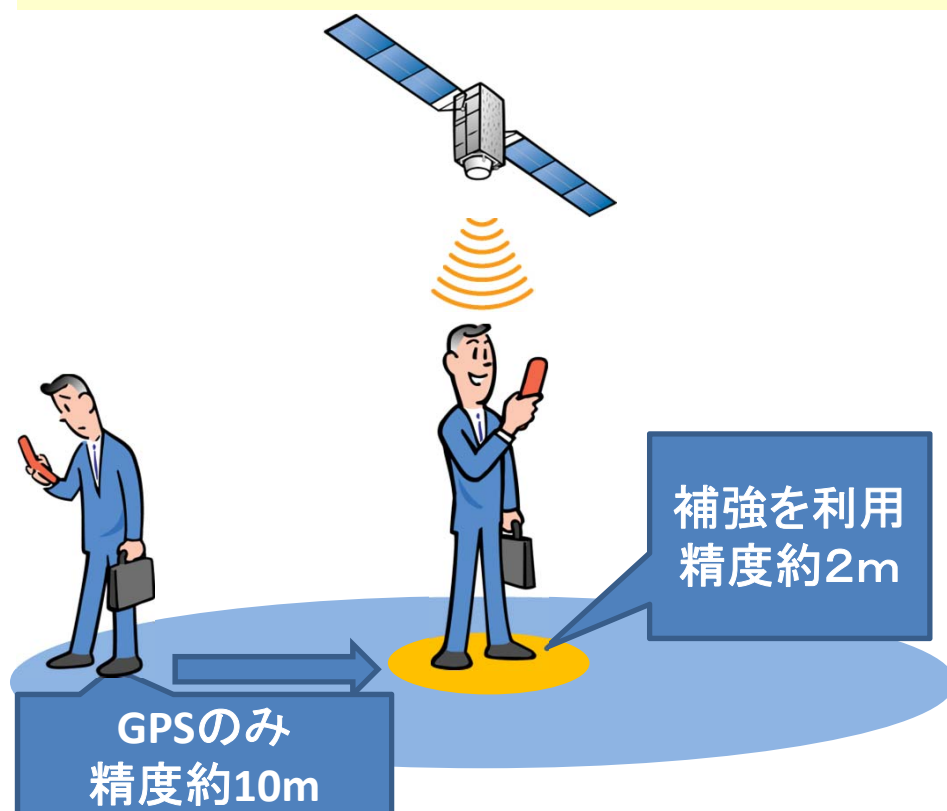


# サブメータ級補強の利用(1)



## パーソナルナビゲーションでの準天頂衛星システムの利用

- ① 観光案内では、観光客の嗜好に合わせたピンポイントでの周辺情報の提供。詳細な地図情報をベースに、高精度測位(補強)、ビル間での測位(補完)が不可欠。
- ② 地図情報やアルゴリズムの整備・開発、標準化等を通じて日本発の同サービスの海外展開も視野に入れる。



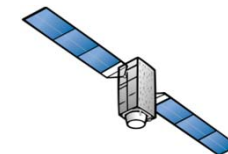
AR(拡張現実)  
での利用  
(例:セカイカメラ)



観光案内  
での利用

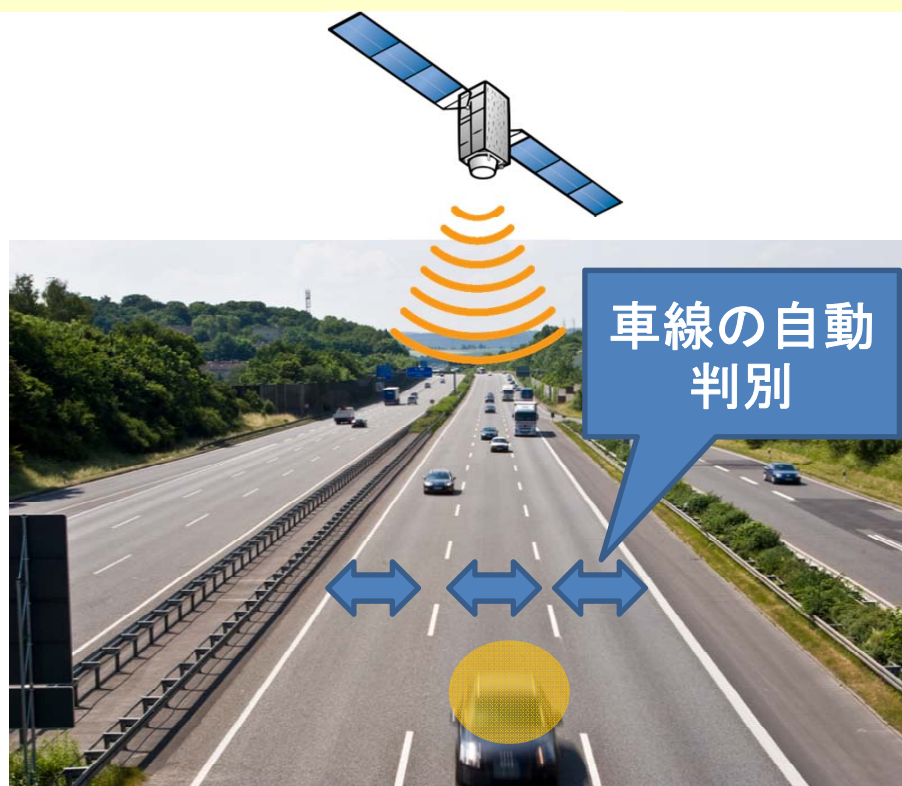


# サブメータ級補強の利用(2)



## カーナビゲーションでの準天頂衛星システムの利用

- ① カーナビの案内精度向上(補強)、受信範囲・時間拡大(補完)
- ② 警報(車線のはみ出し警報、カーブ・下り坂手前の減速警報)
- ③ 道路状況に応じた運転支援、高速道路の上か沿道かの判別、逆走防止等
- ④ 運転支援(自動運転、適応型クルーズコントロール、衝突回避、上り坂手前の加速によるエコドライブ)



交通分野等の人命に関わる利用では、精度だけではなく、精度の信頼性が必要であり、補強機能があって初めて衛星測位が利用可能となる。

# センチメートル級補強

